

○「第3期中期運営方針」の評価（修正案）について

【ファシリテーター】

- ・初めに次第の「3（1）報告「第3期中期運営方針」の評価（修正案）について」事務局から説明を願います。

【事務局】

- ・目指す「8つの未来」に沿った5年間（令和3年度～7年度）の評価（案）の修正案について報告する。
- ・第1回アドバイザリー会議では様々なご意見やご提案、感謝申し上げる。頂いたご提案などを反映し、主に3点を変更している。
 - ・1つ目は、「成果と課題」について項目ごとに記載しているものを、「課題」については最後にまとめて記載している。なお、後ほど説明するが「課題」ではなく、「今後の取組」という表現にしている。
 - ・2つ目は、はっち内において継続していない活動を「課題」と捉えていたが、はっち館内に留まらない市内外での活動や、異なる他の団体の新しい活動が生まれていることから、「課題」ではなく成果の一つとして捉え、「課題」からは削除している。
 - ・3つ目の変更は、8つの未来のピクトグラム（オレンジのマーク）を追加することで視覚的にも分かりやすくしている。
- ・資料に沿って変更点を説明する。1～8ページは主に成果を記載している。成果の記載内容は前回と大きく変わった点はない。
 - ・1ページは「（1）多様な活動とコミュニティが息づく街」の成果を記載している。
 - ・2ページは「創造的なチャレンジに開かれた街」、3～5ページ「顔の見える経済を大切にする街」、6ページは「寛容と共生を価値とする街」、7～8ページに「伝統が誇らしく受け継がれる街」、9ページに「子育てが楽しくなる街」、10ページに「緑を豊かに育む街」、11ページに「情報の発信とアクセスに優れた街」掲載している。些細な表現の方は変わったが、ほぼ前回と同じ成果として記載している。
- ・12ページ以降だが、こちらは修正を加えた変更箇所を読み上げる。12ページの「その他の成果・効果」に3点追加している。
- ・12ページの上から3つ目の丸で視察について追加している。「先日公表された日経BP総合研究所の全国自治体・視察件数ランキング」における、10万から30万人未満の人口規模ランキングではっちとブックセンターがともに第18位、八戸市美術館は第28位となるなど、トップ30の中に1つの市で3つの施設がランクインしているのは当市だけであり、多くの行政関係者や文化関係者が視察に訪れてています」というものを追加している。
- ・下から2つ目の丸で「館内に設置している『ご意見シート』では、『はっちはとても居心地良く、ずっと居られる。自分の近所にもこんな施設が欲しい。』『館内が清潔で展示物やテーブル、イス、その他の配置も工夫されていて、様々なイベントも企画されていて充実している。飲食コーナーもあり、他にはない施設だと思う』といった意見も頂いています」
- ・一番下の丸の「館内の持ち込み飲食について、勉強のため施設を利用する学生をはじめとした来館者の声を受けて、令和7年4月からペットボトルなど蓋つきの容器に入ったものを持ち込むこととしました。」この2つを追加しています。
- ・資料13ページでは「課題」としていたものを「今後の取り組み」として記載している。それに伴い表現にも変更を加えている。
- ・1つ目の丸「はっちの事業に関わったことをきっかけに、三陸国際芸術祭等が開催されるなど市民主体の活動が生まれています。今後も、はっちがまちづくりや創造的活動の

拠点となるよう、市民活動をサポートする事業として、市民公募型事業やマチニワイベント支援事業を継続するほか、市民の新しい活動の支援に取り組みます。」

- ・2つ目の丸「令和6年4月1日改正障害者差別解消法が施行されたことに伴い、障害のある人もない人も共に参加できる環境を整えるため、令和6年度から「盆踊りディスコ」を開催しています。今後は、個々の場面で柔軟な対応ができるよう、スタッフ間でも課題を共有して参ります。」
- ・3つ目の丸「南部菱刺しの作品展『天羽やよい展』には多くの来場者が市内外から訪れたり、15周年記念事業の南部裂織イスカバープロジェクトには、のべ100人以上の方に参加いただくななど、伝統工芸の関心は高いと感じています。はっちの役割は、多種多様な伝統芸能の技や作り手を紹介することにより、その魅力を発信していくことであることから、今後も地域の作家や伝統工芸の興味関心を喚起する事業に取り組んで参ります。」
- ・4つ目の丸「『こどもはっち』は中心街にある子育てセンターであることから、施設を利用するだけでなく、利用する親子がまちづくりに参画し、次の世代に繋げていく仕組み作りに取り組んでまいります。」
- ・最後の丸「自主事業の集客、入居テナントを含めた施設情報、八戸観光のポータルとして観光客に役立つ情報、施設を借りる方への情報の提供など、多くの人にとって利用しやすい施設となるよう、情報発信機能の強化が必要であると考えています。今後貸館の利用促進のため、初めて利用する方にはわかりやすい利用案内、八戸の入口として市内の観光情報の提供、カフェやショップなどのテナント情報など、多くの方にとって開かれた施設となるようホームページの改修など情報発信に力を入れて参ります。」
- ・評価については、「第4期八戸ポータルミュージアム中期運営方針」の付属資料となります。

【ファシリテーター】

- ・前回、表現を直した方がいいとか、課題などについてのご意見があつたものを（事務局で）大分反映させて頂いている。構成自体を全く変えており、大変な苦労もあったと思う。
- ・ただいまの説明に何かご意見、ご質問はよろしいか。
- ・この評価については意見が出た場合、修正が可能なので、少し表現を改めた方が良いなど、何か意見があればお願いしたい。

【A委員】

- ・「他の成果」になるかと思うが、はっちの開館（平成23年2月11日）の1ヶ月後に東日本大震災が起きた。はっちに避難する人も多くおり、街の飲食店の方々がはっちで（避難者のために）食事を準備して頂いたことがあった。
- ・（先日の）12月8日の青森県東方沖地震でもはっちを開け、避難された方がいたという話を聞いたので、はっちは災害が起きた時でも安心できる場所である旨も書いた方が良いのではと思った。災害があった時に、安心できる場所となっているというようなことも入れてはどうか。

【ファシリテーター】

- ・12月8日の青森県東方沖地震の際にはっちを開けた話を伺ったが、それも1つの場所と言って良いかと思う。後で（事務局で）検討していただきたい。

【事務局】

- ・12月8日は最大で80人受け入れた。今回のご意見も検討したい。

【ファシリテーター】

- ・はっちと公会堂も避難場所になったと聞いた。当時、車での避難者により渋滞していたという新聞記事も見た。はっちは、中心街の避難場所として、開けたのだと思う。

【事務局】

- ・はっちも公会堂も指定避難所ではないが、不安に思っていらっしゃる方がいれば、自主的に開放している。

【文化創造推進課（傍聴席）】

- ・公会堂も指定避難所ではないが、市役所に人が溢れたため、急遽開けた。

【B委員】

- ・第1回会議で、高校生の活躍の場や若者の話があったが、市役所の各課が高校生に頼みすぎではないかといった話が出た。例えば「目指す『8つの未来』に沿った5年間の「(1) 多様な活動とコミュニティが息づく街」のあたりで、開館以来、多数の高校生に利用してもらって、高校生が集まる一つの拠点となっているが、そこに集まる高校生に参加してもらえるような企画や、若者にサードプレイスとして使ってもらい、若者等が事業に関わってもらえるような仕掛け・事業は既に行っていると思う。
- ・次の5年間に向けて、この点も少し触れても良いと思った。

【事務局】

- ・13ページの「今後の取組」に入れても良いかもしれない。
- ・この後に説明する第4期中期運営方針（素案）でもこの点に触れているので、検討したい。

【ファシリテーター】

- ・高校生や若者世代のみならず、多様な世代が関わるのがはっちの意図だと思う。
- ・高校生だけではなく、色々な多様な世代にはっちに関わってもらいたい、というような形でまとめて良いと思う。

○「第4期中期運営方針」（素案）について

【ファシリテーター】

- ・第4期中期運営方針（素案）について事務局より説明願います。

【事務局】

- ・第4期ポータルミュージアム運営方針（素案）は、第1回会議で委員から頂いたご意見や、事務室内でも話し合いを行い、第3回中期運営方針を見直す形で素案を作成した。
- ・まず全体の構成について、素案の1ページ目ご覧いただきたい。「1.はじめに」は冒頭の挨拶の内容となっている。
- ・次の「2.中期運営方針の位置づけと計画期間」について。第3期中期運営方針では記載がなかったが、八戸市の総合計画などはっちは関係する他の計画や、中心市街地活性化基本計画、はちのへ文化のまちづくりプラン等との関連について説明している。また、計画期間を令和8年度から12年度までの5年間とすることを示している。
- ・次に2ページ「3.現状分析（市街地の動向）と5年間の成果」では、第3期中期運営方針策定した令和3年4月以降の社会情勢と中心市街地の状況について、公共施設の整備と併せて概要を説明し、はっちはの来館者数の状況も記載している。
- ・次に2ページ下の「5年間の成果」は4項目にまとめている。第3期中期運営方針では、開館から10年が経つタイミングであったため、10年間の成果を総括した内容であったが、第4期中期運営方針では5年間の成果でまとめている。
 - ・1つ目は「市民活動・文化創造の拠点」で、様々な自主事業やAIR（アーティストインレジデンス）、パフォーミングアーツ、まちぐみ事業などを通して、地域の魅力再発見や文化芸術への興味関心の喚起、中心市街地に対する市民の関心を高め、継続的な活動のきっかけとなる動きが見られたという形でまとめており、開館以来のコンセプトである地域を大事に想いながら、新しい魅力を生み出すことを継続しているという点を、成果として記載している。
 - ・2つ目は「安全快適な施設環境の強化」で、第3期中期運営方針の評価には記載がないが、開館から15年が経ちLED照明の導入や貸館予約システムの改修など、施設環境の面で5年の間に取り組んだ内容を明示し、施設面での対応もしている所を表している。
 - ・3つ目は「施設間・関係機関との連携」で、こちらは商工会議所等と連携し、開館以来実施してきた企画の他に、5年の間に新たに行なった取組として、マチニワイベント支援事業やマチニワナイトマーケットが、コロナ禍を経て連携した事業として行っている。公共施設間の連携としては、令和3年にリニューアルオープンした美術館のヨルニワの他、情報発信の面でも協力して事業を行なっているところを成果として挙げている。
 - ・4つ目は「共生社会実現に向けた取り組み」を挙げている。これは障害の有無や国籍の違いなどを超えて参加できるイベントや、館内展示の多言語対応など、共生社会の実現に向けた新たな課題に取り組んだことを示している。

【ファシリテーター】

- ・1・2ページの「1.はじめに」から「3.現状分析（中心市街地の動向）」までについて要望や質問があれば、ご意見を願いたい。

【ファシリテーター】

- ・令和7年度の4月から11月までの来館者数がどの程度か、統計（数）は出ていないか？

【事務局】

- ・来館者数の統計は毎月取っている。現在は、令和6年度と比較し、横ばいよりは少し増で推移している。

【ファシリテーター】

- ・今年度は残り3ヶ月あるが、最終的には、昨年より少し微増の予測になるのか？

【事務局】

- ・現状ではそう考えているが、地震の影響が心配。これから2月に15周年事業を予定しているので、そこで増加してくれればという希望がある。

【C委員】

- ・2ページの「5年間の成果」の「施設間・関係機関との連携」について質問がある。商工会議所と連携する場合は、定期的に年間の事業のすり合わせや、年度初めに大きいイベントの実施について会議を行うことがあると思う。こうした定期的な会議の中で他の施設や団体が「このようなことをしたいので中心街で一緒に連携して実施したい」といった意見が出た場合、どのような連携の取り方を今まで行っていたのか。

【事務局】

- ・「施設間・関係機関との連携」の欄には「商工会議所等と連携」と記載しているが、中心街委員会という組織において定期的に会議を開催しており、はっちも参加している。中心街で行われる七夕やホコテンは、具体的な内容やそれに合わせたはっち・マチニワの使い方などについて定期的に協議しながら進めている。
- ・その他に中心街の商店街連盟や横丁連合協議会、VISITはちのへ等で組織した実行委員会が八戸横丁月間を進めている。4月から10月の横丁月間に合わせる形で、イベントの内容などを調整・協議している。はっちやマチニワの使い方などについてはその都度協議している。

【C委員】

- ・中心街委員会や八戸横丁月間の実行委員会の中に、美術館などは入っているか。

【事務局】

- ・入っていないが、美術館や文化創造推進課が管轄しているブックセンターなど市役所の部署とは、月に1度連絡会議を実施して情報共有している。直近の課題への対応や将来的な話など、定期的に行っている。

【D委員】

- ・5年間の成果の話ではないが、こどもはっちのように親子の居場所となっているといった内容が素案の中に無いのかと思った。こどもはっちは開館当初からあるためで、特にここ5年間というわけではないが、ずっと親子の居場所としてあるというような内容が文脈の中にあれば良いと思う。

【事務局】

- ・成果を整理し、どこの箇所に入れるのか検討したい。

【E委員】

- ・ヨルニワははっちが主導している事業か？

【事務局】

- ・文化創造推進課が主導している。

【E 委員】

- ・ヨルニワは出店者をどのように募っているのか教えて頂きたい。

【文化創造推進課（傍聴席）】

- ・出店者は公募ではなく、文化創造推進課から声掛けしている。様々なイベントに職員が赴き、新しいお店に声掛けしたり、或いはお店の方から出店したいと申し出を受けお願いすることもある。

【F 委員】

- ・2ページの「5年間の成果」内の「共生社会実現に向けた取り組み」は近年の新しい取組だと見受けられる。新しい事業が増えしていく中で、逆に、方針とは異なるため減らした事業や方向転換したものがあればご教示いただきたい。

【事務局】

- ・ここ5年間で見ると、コロナ禍（の影響）で一旦事業が減った。その後、第3期中期運営方針の中では「くらし学アカデミー」や「はっち放送部」といった高校生が対象の事業が増えた。
- ・しかし直近5年よりも前にあった、日本文化に親しむ日という「和日カフェ」事業は5年以上前になくなかった。これは毎月1回、日本舞踊や書道など日本文化のさまざまなジャンルを定期的に行うというもの。アーティストインレジデンスも、規模的に少し小さくなっていることは過去10年間の中での変化。
- ・こうした中で第3期中期運営方針を作った際、改めてはっちとしてどのようなことを取り組むか検討した中で、「暮らし学アカデミー」や「はっち放送部」等の事業が出てきたことが、今思いつくところである。

【F 委員】

- ・どちらかといえば、色々なことを市民に提供するというよりも、能動的に関わるような小さな催しにシフトしてきたように感じた。

【G 委員】

- ・2ページ「現状分析」と「5年間の成果」について。成果とは「このような事業を実施し、このような結果になりました」というものかと思う。今「5年間の成果」に記載しているものは一概に成果として、具体的にどのようなものか読み取れないものもある。
- ・ただ、「5年間の成果」というタイトルを文字通りに解釈してそのように感じているのかもしれない。そもそもタイトルが適切なのか答えが出ないままの質問になるが、事務局が述べてきた取組としては、「5年間の成果」に記載が必要なことだと思う。
- ・これから詳細を精査していくと思うが、「5年間の成果」の「市民活動・文化創造の拠点」の欄に「このような活動がこういったきっかけになりました」というような内容が書いているが、「施設間・関係機関との連携」については、ふわっとした表現となっており、実際どうだったか、やってみてどうだったのかというのが何となく見えてこない部分があった。特に「共生社会実現に向けた取り組み」は取り組んだことは分かるが、どのような成果があったかについては触れていないように感じる。そのような点を整理できればと良いと思う。

【事務局】

数字で出せる部分とそうではない部分がある中で、出せる要素を内部でも検討し、第3回の会議までに整理できればと思う。

【G 委員】

せっかくいろいろな取組を行っていると思うで、どういった効果や成果があったのか、具体的に分かりやすい方が良いと思う。

【ファシリテーター】

- ・時間の関係もあるので、次に「4. 未来を創ろう 2030」と「5. 3つの柱と取組スタンス」について進みたい。

【事務局】

- ・資料の3ページ以降の説明だが、ここから具体的な内容の話になる。3ページのタイトルは「4 未来を創ろう 2030」で、副題の箇所は第3期中期運営方針では「これまでの10年の先に紡ぐ新たな10年」としていたが、5年を経た中で表現を「-まちの元気と未来に向けて市民とともに-」と変更している。
- ・次に「中期運営方針の事業構成」の部分について。「ミッション」と「ビジョン」の部分の変更は無い。また第3期中期運営方針で掲げた8つの未来だが「まちの将来像」としての掲げたものであり、5年が経った現在でも方向性を変える必要はないと判断た。
- ・第3期中期運営方針から大きく変更したのが「戦略」と「取組内容」の箇所。4ページ「5 3つの柱と取組スタンス〈未来を創ろう 2030〉実現のための戦略一」をご覧いただきたい。
- ・第3期中期運営方針では、「戦略」としては「何に」というテーマと「どう取り組むか」という取り組みのスタイルを3つずつ定め、戦略的ビジョンの実現を目指すこととしていた。「何に」だが、第3期では「つながりをデザインする」「にぎわいをデザインする」「くらしをデザインする」という表現で掲げていた。「どう取り組むか」というところについては、「協働による企画」「市民活動応援」「創造と交流の拠点づくり」の3つをスタイルとして掲げていた。
- ・この部分についてスタッフ間でも話し合ったところ、事業プランも含め、自主事業の内容に偏っててしまっているところが課題ということで修正した。やはり、はっちの運営の基本部分である3つの事業「会所場づくり」「貸館事業」「自主事業」改めて出すというところが重要。またスタッフの理解も促しやすいというところから、この3つを重要な点として示すこととした。
- ・この3つの事業を運営する上で、4ページ下方に「取組スタンス」を記載している。「協働」と「応援」については第3期中期運営方針と同様だが、新たに「連携」を掲げた。これまで以上に文化芸術や観光、まちづくり、子育てなどを様々な取組の拠点や入口としてのはっちの役割を明確にしたいということで、このような形としている。
- ・また、この後に掲載する事業プランについて、第3期中期運営方針との大きな違いとして、より具体的な表現に改めたという点と、これまで継続して取り組む事業と新たに取り組む事業を分けて掲載している。新たな取り組みは黒丸●、既定の取組は白丸○という形式で分けている。
- ・5ページ以降に事業プランを数多く掲載しているが、新たに取り組む事業を多く掲載している。これは全ての取り組みを来年度に着手するというわけではなく、優先順位などを年度ごとに検討しながら進めていきたいというもの。基本的に事業プランは前回、委員の皆様からの頂いたご意見をなるべく反映させた内容としている。
- ・5ページ「会所場づくり」の取組方針、近年話題になっている居場所としての機能。サードプレイスといった表現もあるが、誰もが気軽に集える環境作りやスタッフ・ボランティアガイドの声掛けなどを通じた観光展示案内。こどもははっち、もの作りスタジオ、貸館スペースなど多様な機能をはっちは持っているため、その魅力を伝えることで、何度もお越しいただけるような取組みを行いたいと考えている。

- ・事業プランは新たな取り組みとして3つ掲げているが、これまでの課題を解決するための方向性というものになる。
- ・1つ目の「2階から上の誘導方策の検討」は、来館者から「2階から上に行けることを知らなかった」などの声があった。ご意見を伺うと「エスカレーターが建物に入ってもすぐに見えない構造になっている」や「エレベーターが奥の方にある」など構造的な要因があつたが、建物の全体構造を変えるというのは非常に難しいため、例えば館内表示や、館内アナウンス、情報発信などで工夫して改善していきたい。
- ・2つ目の「多世代が快適に利用するためのあり方の検討」について、若者の市外への流出が八戸でも課題となっている。若者の居場所作りという部分と、一方で前回のご意見にもあつた多世代が集まる、混在しているという点も（はっちの）良さであるため、バランスを考える必要があるというところで掲載した。
- ・3つ目の「館内情報や若者の市内活動拠点の情報発信」は、主に高校生などが対象になると思われるが、はっちだけではなく、番町サテライトキャンパスばんらぼや美術館、図書館も高校生に利用頂いている。YSアリーナ、民間でも十六日町にはちのすができ、若者が集ったり、勉強のために無料で利用できる場所がいくつもある。それらの基礎的な情報や、館内の状況をホームページや館内掲示などで発信するようなことを検討している。それによって若者の居場所づくりにも貢献できればと考えている。
- ・続いて6ページの「6. 柱ごとの取組方針と事業プラン〈貸館事業〉」をご覧頂きたい。貸館事業は、第3期中期運営方針では具体的な記載が少なかったが、第4期では自主事業だけではなく、貸館を増やすための取組が大事ではないかということで、自主事業と両輪で新たな市民の活動が生まれるきっかけとなる動きを促すようなことに努めたいそのための取組、運用改善の取組を事業プランに掲げている。
- ・「市民公募型事業や連携企画の実施」の他に、シアター2に設置している東北地方のホールでは数少ない貴重なピアノのベヒシュタインや、マチニワにあるストリートピアノを活用した企画を継続して実施する。
- ・その他に「新規貸館利用促進のためのお試し貸館の実施」や、「目的別貸館説明会の開催」「貸館希望者への個別相談の実施」、利用した方のご意見をより直接的に伺うための「貸館利用者アンケートの実施」がある。
- ・主に文化芸術活動の分野になるかと思うが、日常的にはっちをご利用くださっている貸館利用者の皆さんによる展示や発表会をサポートする「貸館利用者応援企画」がある。
- ・イベントを立ち上げてみたい、趣味を生かした活動や仲間作りをしたいなど、若い人を中心としたチャレンジを応援する取組として「若者のやってみたいことを実現する企画の実施」を行いたい。
- ・最後の「レジデンス活用促進の検討」について。レジデンスは貸館利用の他に、アーティストや招聘した方に滞在して頂いている。例えば八戸について調査研究のためにいらっしゃった大学生や研究者の方、そういったリサーチャーが市民や市内の学生と交流することなどを条件に、レジデンスを利用していただくような仕組みを作ることで、レジデンスをさらに有効に活用できるかというところを検討していきたい。

【ファシリテーター】

- ・3～6ページの内容について、意見があればお願ひします。

【C委員】

- ・これまではっちの役割を図で明確に表したことが無かつたため、4ページの「事業の柱」の図はとても良いと思う。
- ・ただし丸〇の大きさが必ずしも同じでなければならないとは思わない。事務局で述べたように自主事業に縛られてしまうと、はっちの役割が大変だと思う。前回会議でも述べ

たように、連携の核となるべきところがどこか、というのが大きいと思う。例えば中心街の盛り上げ方にとっても、はっちは常に情報が集まるところだと思う。庁内の方がどうするかというより、市民から見るとやはりはっちは中核であるようになって欲しいと思う。

- ・必ずしも「事業の柱」の丸〇が同じ大きさである必要はない。例えば自主事業が小さくても良いと思っている。その代わり貸館事業や会所場づくりの丸〇を大きくするなど、3つの柱の大きさに違いがあっても良いと思う。
- ・「取組スタンス」についても「協働」「応援」は市民にとっても分かりやすい。「連携」と「協働」はまた違うあり方の形なので、4ページは良いと思う。
- ・5ページの「2階から上の階層への誘導方策の検討」は確かに問題である。例えば展示は1度見てしまえばもういいやと思うので、特に4階は死活問題。（4階には）こどもはっちはあるが、まだ4階まで来たことがない方たちが多くいる。
- ・ただ、オープン当時からはっちを見ている者として思ったことは、4階のものづくりスタジオのアプローチが弱くなったと感じる。開館当時は必死感があり、こどもはっちや周りの店舗も自分たちで引っ張らなければならないという意思と、そうしなければならないという後押しがあった。
- ・当時はとても厳しかったが、逆に今は少し緩くなってしまった。入居者も甘えているようなところがあると感じる。4階は店舗を出している方たちが自主的にもっと考えていかなければならない。
- ・館内（はっち）というとても良い立地のところでお店を出させてもらっているという認識を、4階以外のテナントも持つべき。あとは、一体感も大切。はっちで店を出している人達の連携のあり方を事務室も少しお手伝いいただくと、意識が高くなると感じている。
- ・若い人たちへの情報発信もとても良いと思う。さきほど事務局が説明した例の中には、私が知らない場所もあった。若い人たちは場所を求めてるので、そういう意味では常にそのような情報発信をしていくと、若い人たちは若い人たちの間でその情報を拡散していくと思う。そこに事業を絡めていくと良いのかなと思う。
- ・あと6ページの事業プラン内にある「市民公募型事業」に関して、やはり伴走をもっとして頂けると、とても良い。
- ・ここ（はっち）にいる者として、こどもはっちは福祉系に該当すると思うが、こどもはっちだからこそ親子に向けたアート的なこともできるし、教育的なこともできる。
- ・一番弱いところは、本来ならば転勤族の親御さんたちも多くいらっしゃるので、例えば中心街委員会やVISITはちのへなどと連携し、そういう親子向けにどのようなことを私達はできるのかというところ。多くの転勤族の親御さんが来るので、どのようなノウハウを持って全国にいる子育て世代に八戸は何を売っているのかというところは、私達も常に一緒に常に考えている。
- ・要は街にお金を落として頂きたい。中心街にいるからには、そのような人達にもお金を落として顶きたくためには、どういう風にしたら良いのか考えている。マチニワを使ったイベントに、先日一緒に連携させていただいた（12/6 スープフェス）時も良かった。そのような意味ではその世代（20～30代）の得意な分野を私達もどんどん引き出したいのだが、彼らがどうして良いか分からぬ時は力を引き出して頂き、はっちのコーディネーターと連携していくと良いかなと思っている。
- ・また、先ほど無くなった事業について述べた際、昔実施した和日カフェなどを懐かしんでいる人達も実はいたりするので、毎回ではなくてもたまに復活しても良いものもあると思う。そういうことも聞き取っていただければ、とても良いのかなと思う。

- ・ただ、やはり事業が増えるだけでは駄目なので思い切って、あまり効果がない自主事業はどんどんカットしても良いと思う。例えばグリーンプロジェクト、もう少しやり方があるのかなと思う。

【ファシリテーター】

- ・先ほど、はっちの4階のお店（テナント）が出てるという話があったが、テナントを含めた全体的な話し合いはするのか？

【事務局】

- ・話を行う場はある。館内定例会ということで月一度意見交換する場がある。あとはボランティアガイドの定例会やもの作りスタジオと1階のカフェやショップといったテナントが、館内全体の定例会の後に、それぞれ定例会を行っている。事業を一緒に行うこともあるので。

【ファシリテーター】

- ・それは15年間ずっと続けているのか？

【事務局】

- ・続けている。

【D委員】

- ・難しい話かもしれないが、会所場づくりの「多世代が快適に利用するためのあり方の検討」というところで、ハード面も少し考える余地があるのかなと思う。はっち館内で過ごそうとすると机と椅子しかないのが現状。
- ・例えば靴を脱いで座ったりゴロゴロできるスペースなど。靴を脱ぐということで、オフになれる感覚があると思う。私事だが、昨年広島に遠征した際、広島駅の目の前に靴を脱いで座れる大きいソファー等があるふわふわとしたスペースがあった。広島県民なのか観光客なのか不明だったが、そこでみんながだらつとしていた。大きい駅の前で大きいスペースを確保してダラダラしているのが、とても素敵だなと思った。
- ・多世代やどんな人でもオフになれる空間というのが、はっちにもっとあると良いなと思う。これも「多世代が快適に利用するためのあり方の検討」に含まれるかもしれないが、ハード面で1フロアまるごとではなくても良いので、一部分だけでも少しオフになれる空間は検討の余地があると思った。
- ・市が対象とする若者というのは、だいたい学生を指していることが多い。例えば私のように20代で子供がいない独身の女性のような人へアプローチした施策があまりないような気がする。子どもがいると子育てのための手立てがある。若者の情報発信といつも高校生や大学生の話になってしまう。
- ・私はまちづくりに关心があるので、色々なところから助けを借りて好きなことやっていく。しかし特にまちづくりなどに关心が無く、何となく八戸市内で進学して大学を卒業し、何となく市内で働いている人や、転勤族の独り身で（八戸に）引越し働いている若い20代ぐらいの人達も、居場所を求めていると感じることがある。
- ・八戸市は学生たちに対する手立てや居場所づくりはかなり熱く行っている印象がある。20代は人口比率的にも少ないので、そこにお金を投じることに何か価値があるのかは分からぬが、子供がいない、まだ結婚も考えていない普通に生きている独り身の20代の若者のような人たちへの居場所としての役割もあると良いと思う。これも「多世代が快適に利用するためのあり方の検討」に含まれるかなと感じた。

【事務局】

- ・「若者のやってみたいを実現する企画の実施」は、先ほども説明したが、仲間作りなど

も含めてやりたいと思っている。高校生に特化するのではなく、大学生や20代など「若者」の定義自体は学生に限るつもりはない。

- ・居場所についても、その都度マチニワで人工芝を置いたりダンボール迷路や積み木を置いたりすると、くつろいでいる感じが出る。それをどういう形で続けるかを、考えていければ良いかなと思っている。

【D委員】

- ・「若者のやってみたいを実現する企画の実施」は自主事業の中にもいろいろあると思うが、主体性のある人しか補助されていないと感じた。やってみたい気持ちがある人でないとはっちは関われないのでなく、ふらっと来ても、やってみたいことがなくてもそこにいてよい居場所づくりという意味でも、靴を脱いでだらけられる居場所が常設されていることも必要なのかなと思った。

【ファシリテーター】

- ・前回もそのような意見があったが、積極的な市民だけではなく、ただ本当にぶらっと寄る場所もはっちは役割ではないかという話が出ているので、おそらく事務局もその辺のイメージを考慮していると思っている。

【事務局】

- ・自主事業を最後まで説明をさせて頂く。7ページから11ページが自主事業の取組方針と事業プランについて。自主事業は4ページに注釈を載せており、4つの基本方針に基づいて事業を行っていた。第4期中期運営方針の事業プランには、この現状を踏まえ、第3期中期運営方針の期間中に新たに始めた事業など、今後取り組むべき内容として別途10ページに「7. 居場所・仲間づくり」という項目を立てて掲載をしている。さらに強化したい取組として「8. 情報発信」を取り上げている。
- ・順に説明をさせて頂く。7ページの自主事業だが、取組方針としては、はっちはコンセプトとしてホームページなどに掲載しているとおり、「地域の資源を大事に想うこと」等を示しながら、中心市街地の活性化や市民活動のきっかけ作り、リピーター確保等のために実施していくということ。取組スタンスとして、新たに掲げた「連携」を意識した表現としている。
- ・具体的な事業プランになるが、「3. 中心市街地の賑わい創出」については、これまで実施してきたシーズンイベントや、はちのへ七夕まつり、はちのへホコテン、八戸横丁月間とグリーンプロジェクト、商工会議所など関係団体と連携した取組を継続する他に、マチニワイベント支援事業や、中心市街地活性化基本計画にもあるストリートデザインビジョンと連携した取組、具体的にはマチニワナイトマーケットを実施しているが、状況に応じて、変化に合わせ連携していくようなイメージである。
- ・あとはマチニワ大道芸など、賑わい創出事業を継続することとしている。まだ具体性はないが、新規事業として1つ掲載している「既存イベントとのタイアップや誘致」では、例えば文具女子博、ジンのような個人の雑誌即売イベントをはっちで開催することで賑わい創出にも貢献できるのではないかと思っている。主催者との話の中で決まるところもあると思うが、チャレンジしてみたいということで掲載をした。
- ・続いて8ページの「4. 文化芸術活動の振興」をご覧いただきたい。これまでアーティストインレジデンスや伝統工芸・伝統芸能に光を当てたプロジェクトと、盆踊りディスコなど共生社会実現に向けた取組を継続する。
- ・まちぐみについても掲載しているが、これは発足から10年以上が経過し、当初の目的である中心市街地で何か面白いことをやってみながら、街と市民の繋がりを生み出すというようなところから、最近は居場所づくりの企画やものづくり活動を通して組員同士の繋がりを生み出すなど、そういう動きがある中で、まちぐみの活動の中で、はっちが目指すところとの整合性を見ながら、必要な部分や相乗効果も発揮できるところを連

携していくという意味で、表現をまちぐみとの連携としている。

- ・新しい取組みとして、パフォーミングアーツ公演事業については、先日（12月13日・14日）パンシェッタの公演が行われた。これまで年度ごとに公募を行い、シアターでの公演と市内学校の出張ワークショップとアウトリーチの組み合わせで実施しているが、基本的には1回きりの公演とワークショップという形だったので、なかなか市民や学校との強い関係性が作り辛い状況にあった。
- ・来年度以降ははっちがこれまでの事業で培った関係性や、コーディネーターのコネクションなどを生かして、市内外からコミュニケーションアーティストとしてふさわしい方に依頼し、できれば2～3年単位で継続的にはっちのレジデンスに滞在しながら、パフォーミングアーツに関するプロジェクトを実施するなど、同じ団体が2～3年関係していくことで市民の方にも親しまれる、また来ているなというようになり、この間も参加したから今回もまた参加してみようというようにその関係性を強くすることで、よりパフォーミングアーツへの理解・関心が深まるような形にできないかなということを模索したい。
- ・再掲の部分は飛ばして、次に「館内ライブラリを活用した企画」と「新たな文化芸術に関するサークル活動の支援」。この2つを掲載しているが、具体的には、今年度くらし学アカデミーという事業の中で、短歌をテーマにこれまで八戸高校や八戸西高校を短歌甲子園日本一に導いた田茂先生、北海道から注目の歌人の初谷むいさんを迎えてトークセッションなどを行い、大変好評だった。学生だけでなく20代の若い世代の方も参加し、アンケートなどではこのような活動を継続して欲しいという声があった。今まで短歌のサークルなどはあると思うが、（メンバーの）年代が違ったりすると入りづらいということもあるで、新たに入りやすいような形のサークル活動を作ることを応援するというような役割を、はっちができたらと考え掲載した。
- ・館内ライブラリは開館当初からずっとあるが、平成28年にブックセンターができるから、あまり本に関わる企画を積極的に行なうことを遠慮してた部分もあった。しかしライブラリがある中で、はっちとしてもせっかくコーディネーターもいるので、活かせることがあればと考えている。それこそ本に関する企画も昔やっていたが、今はそれも少なくなっている。できることはやりながら、ブックセンターとの連携もあるかと思っている。
- ・続いて9ページ、「ものづくりを通じた新しい価値の創造」。こちらは既存のクラフトマーケットや館内テナントの皆さんのがホコテンや七夕で軒下に出店しているが、そういう企画は継続して実施していきたいと考えている。
- ・あとは「地域に受け継がれてきた伝統工芸・伝統芸能に光を当てたプロジェクト」というのは、今ものづくりスタジオ4階に南部製織のブースと体験ブースがあり、そういうものを意識し掲載している。
- ・「ものづくりスタジオ支援事業」については、これまで実際独自に講師を招き、SNSの活用方法などテナントを対象に研修などを行っていたが、研修だけではなく、市の他部署や商工会議所でも起業家支援などの事業を行っているため、ものづくりスタジオは本来の目的としては起業家支援というところがあることから、そこを連携することでより効果的な支援ができるいいなと思う。具体的な内容はこれから考えていくが、そういうことを今後の5年間に取り組んでいきたいと考えている。
- ・続いて「6. 八戸の魅力発信と観光を通した地域活性化」について。「お祭り連携」はこれまで三社大祭とえんぶりの時期に合わせて山車の展示や公演を行っているが、お祭りが開催されている期間以外でも、祭りの魅力の理解を深めていただく講座などを、必ずお客様がいらっしゃるお祭りの時期以外でもお祭りの魅力を、館内の展示も含めて、魅力を情報発信することで、よりお祭りの魅力を発信できるような企画を考えていきたい。
- ・さらに観光展示屋台が1階に8台あるが、その展示屋台のモニターの改修を進めている。

る。今は決まったフォーマットのデータしか流せないものを、モニターを交換する中で、汎用性のあるデータを流せるよう改修を進めている。今は朝市の動画などは、VISIT はちのへが作ったものも観光展示屋台に入れている。これからも新たな動画やチラシなどを生かし、新鮮な情報について観光展示屋台を活用して発信することができれば、より観光客や市民にとってもとても良い展示になるのかなと思う。それと同時に大学などの高等教育機関と連携し、一緒に動画を作つてみるプロジェクトを実施したりすることで、またその作成した動画を展示活用するということで、その大学の若い世代との繋がりや関わりができる、市民の皆さんとの繋がりを生んだりすることができれば良いなと思っている。

- ・「はっちサポートー、ボランティアガイドと連携した観光展示の活用」について、ボランティアガイドから協力をいただきながら、館内には1階の8台の観光展示屋台の他にも、八戸の地域資源や魅力を展示しているものが2～4階にもあるので、そういうものもあるということをいろんな形で情報発信したり、ボランティアガイドの解説だけではなく、チラシではないが展示シートのようなものを作るなど、そうやって上の階に誘導することで会所場づくりに繋がると思う。
- ・続いて10ページは、4つの方針にプラスαで追加した「居場所・仲間づくり」について。こちらはこれまで実施しているボランティアガイドの活動や、くらし学アカデミーなどの事業を通して、参加者や活動している方同士の繋がりができるという部分で「居場所・仲間づくり」に掲載しており、こどもはっちの事業についてもこちらの方に掲載をさせて頂いた。
- ・新たな取組としては、黒丸がついた4つの事業となるが、これは全て再掲となるので説明は省略させていただく。
- ・続いて11ページの「8. 情報発信」について。最初の4つの白丸○は継続した取組で、「文化観光団体、施設との連携による情報発信の強化」「SNSの効果的な活用によるターゲットを絞った情報発信の取組」「状況の変化に対応した館内観光展示等の更新」は継続していく。また「メディア関係者とのつながりを活かした情報発信」通常の記者クラブなどにプレスリリースを行うが、それ以外でも全国的に発行されている雑誌の取材を受けることが時々あり、その媒体の記者の方と繋がりができる時にこれを生かしていきたいなと考えている。実施する自主事業など内容によっては雑誌やテレビ局など興味を持ってもらえそうな所にピンポイントで情報発信を行うことで、よりきめ細かく取り上げてもらえるような、情報発信をしていきたいと考えている。
- ・11ページの黒丸●だが、1つ目の「ウェブページの改修による施設利用促進のための情報発信の強化」について、現在のホームページはイベントを中心に掲載している。貸館が非常に重要ということを先ほども述べたが、館内の様々な貸出施設の紹介や手続きなどもなるべく分かりやすく掲載したり、館内展示やテナントの情報、貸館のイベント情報、特に大きなイベントについても見せることができるようにしたい。ウェブページには様々な機能があるので、バランスよく情報発信するように改修したいと考えている。
- ・また会所場づくりのところでも述べたが、館内放送を工夫することで、2階より上のフロアで行われる自主事業や貸館（どれを対象とするのか整理は必要になるが）などの情報を来館者にお伝えすることで、館内で人が動きまわるようなきっかけに繋げたい。
- ・3つ事業の柱ごとの取組方針と事業プランについては以上となる。
- ・11ページ下の補足として、「関連計画への対応」として2つ掲載している。中心市街地活性化基本計画とはちのへ文化のまちづくりプラン等の計画と整合性を図りながら事業の運営を行っていく。「計画期間中に取り組むべきその他の運営上の課題」として、開館から15年経過しているため、指定管理者制度など施設運営のあり方について検討している。また音響、照明、空調、エスカレーターなど設備関係も計画的に更新することで、安定した施設運営を進める必要があると考え掲載している
- ・続いて12ページ「7 評価方法と変化への対応」。こちらは第3期中期運営方針からほ

ば変更はない。基本的にははっちが事業を行った結果、どのように目指す8つの未来に貢献したか、事業を通じて社会にどのような変化を産んだかを検証することで、その効果のアピールにもつながり、事業の改善を行ってその評価をステークホルダー（活動によって直接間接に影響を受ける関係者）と共有することで取組の輪が広がるということも期待しながら、その後の事業にまた活かしていくという循環を示している。

- ・12ページ下の「運営方針の流れ」だが、第4期中期運営方針が2030年までの計画期間となるが、その後の5年間の評価を整理共有しながら、2031年度以降の第5期中期運営方針を策定するというところを表示している。
- ・13ページは評価の具体について、年度ごとの流れを記載した外向けのもの。内部としてもこういった流れに沿って事業を公表したり、実績を整理して評価を定め、次年度の目標にも生かしていくという流れを見えるようにしている。

【ファシリテーター】

- ・何か意見があればよろしくお願ひします。

【A委員】

- ・第4期中期運営方針が完成したら、紙媒体やウェブページなど、どのような形で掲載するのか？

【事務局】

- ・ウェブページの掲載が基本だと認識している。

【A委員】

- ・なぜその質問をしたかというと、はっちのやる気が溢れてやりたい事がたくさん書いてあるので良いと思うのだが、この（素案に掲載の）ピクトグラムが小さくて見えなくなつておらず、もったいないと思った。

【事務局】

- ・見栄えやデザインは改善点として検討する。

【F委員】

- ・例えば「レジデンスの活用促進の検討」や「パフォーミングアーツ振興事業」などに関わってくると思うが、「酔っ払いに愛を」のように外から来ていただくアーティストと地元のアーティストが混ざり合って一緒に企画に取り組むことがすごく良いことだと思う。全てが外からではなく、地域で活躍してくれる人と一緒に盛り上げて作っていくようなことを意識していると思うので、そういったことを今後も継続していければと思う。
- ・レジデンスも市内の人（アーティスト等）に滞在してもらう、レジデンスなので必ず外からというイメージもあるかと思うが、そうでなくでもいいのかなと思う。青森市にあるレジデンス施設の国際芸術センターなどでは、リサーチのためだけでも外から来る人を受け入れて、滞在して作品を制作すること以外でも受け入れている。レジデンスの利用を幅広く捉えることも活用促進につながると思った。
- ・館内ライブラリを使った学校との連携も、すごく良いと思っている。たまに、はっちのライブラリに行くと面白い本があるが、（4階なので）行きづらいと感じた。だから、先ほども話題に出たが、ライブラリが1階にあったらかなり活用されるのではないか。上手く活用して頂けると面白いと思う。
- ・ブックセンターと美術館で行っているジン（ZINE）クラブの活気がいいと言うか、作品を作りたいという人達が週1回月1回とか集まっているのだが、そういった人とも連携していくことでまた盛り上がってしていくと思った。

- ・「居場所づくり」の部分について、先ほどD委員が仰ったように物理的に場所を作ることも居場所づくりだと思うが、役割をつくることも居場所づくりになると思う。何かを積極的にやりたい人達以外のもう少し受動的な人達にとっては、ボランティアでの関わりや何か役割を持ってはっちは来る理由などを与えるということが、居場所作りになるのではないかと思う。
- ・まちぐみは、ふわっとしたボランティアの役目を与える、上手いやり方でやっている部分があると思う。まちぐみが行っているプロジェクトも当然あるが、実は大きいもので言うと、何かを積極的に作りたいと思っていない人たちに役割を与えていているということを、まちぐみは上手い形でやっていると思う。もちろんはっちはコーディネーターがそういったクリエイティブなボランティアを、上手くアレンジして市民に提供することも、居場所づくりに繋がっていくと思う。

【E委員】

- ・お祭り関係について。お祭り実施期間に限らない展示というところが、非常に大事。市内の方への継承、特に子ども達への継承に繋がると思うので、継続的に発信していくことが大事。旅行者の場合は旅前の情報発信に繋がり、祭りを見に来るきっかけになる。VISITはっちは旅前を意識し情報発信を行っているが、まだまだ足りない部分もあるので、そういうところを補いながら、今後やっていければと考えている。
- ・あとは9ページの下の写真にもあるように、えんぶりの着付け体験もなかなか見ない事業。VISITでは手が届かないところだが、今後、特に外国人もとても魅力的な事業に見えると思う。こういったところも一緒に情報発信していけたらと思う。
- ・旅行会社を呼んで市内の視察会を行っているが、はっちは観光展示についてガイドを付けながら説明した後に、実際に現地へ行くとそれだけで付加価値が上がる。お金の問題もあるかと思うが観光展示について、古いものは徐々に改修して欲しい。

【B委員】

- ・美術館で毎年3月にアートファーマーミーティングを行っている。美術館の建築ボランティアガイドや各アートプロジェクトを応援している人達が集まり1年間を振り返って、館長などから翌年度の企画説明や協力のお願いをしたり、参加者から生の意見を聞いたりする。はっちは最近そのようなことを行っていないが、思い返すと開館日の2月11日に8周年まで毎年周年のタイミングで、関係者が意見を言うなど振り返りのような場面があった。例えば2・3月の年度末やアーカイブを作成する時期に、はっちはボランティアガイドやアートプロジェクトに関わっている人、館内テナントの方達と一緒に振り返る場面を評価のタイミングで行ってもいいかなと思った。中期運営方針の評価の箇所で2・3月の年度末に実施してはどうかと思う。
- ・会所場づくりや貸館を手厚くしようというのも良いと思った。ギャラリーやシアターも小さいので、初めて展示やイベントを開催する人にとって（はっちは）大きな失敗をしにくいこともはっちはの良さだと思う。そういった人達をサポートし、はっちに慣れてきたら美術館や公会堂にステップアップや使い分けしていくというのが、当初のポータルという話からしても貸館と会所場づくりを大事にするというのがとても良いことだと思う。加えると、毎週何曜日とか毎月第2何曜日にはっちはコーディネーターから企画のアドバイスをしてもらう「コーディネーターデスク」のような日があると、貸館する人にとってもコーディネーターの経験としても良いのではと思う。
- ・あとD委員が言ったことも気になったが、LINEヤフー株式会社の事務所を見学した時に、目を休める場所があった。常設の場所にするのか分からぬが、チルディを設けてこの日はっちに行けば自分を受け入れてもらえる、自由に過ごせるというのもありだと思う。LINEヤフー株式会社の絡みで言うと、ITテレマーケティング協議会の方々も本当ははっちやマチニワにお弁当持て休んでいただきたいが、IT関係の人達にあまり利用いただいてない。IT協議会では全社の社員育成アンケートを取るシステムがある。何か聞きたいときはそのアンケートが使えるそうなので、ITテレマーケティングの人達に

もっとはっちやマチニワを使ってどんなリラックススペースがあれば行きたいのかアンケートを取れるそうなので検討してもらえばと思う。

【G 委員】

- ・事業の柱として「会所場づくり」「貸館事業」「自主事業」が独立したものではなく、相互に絡んでいる部分を保ちながら事業が成り立てばと良い思う。D 委員が仰ったように何かをやることを目的に来た人をターゲットにするだけでなく、何かのきっかけを作つてあげることも大きな役割だと思う。その中で他の貸館につなげていくものもたくさんある。そのように双方関連していく事業の関係性であることが理想だと思う。
- ・震災で私もはっちに避難する人を見て感じたが、何かあった時に市民が安心して訪れることができるこどもはっちの大きな役割だと思う。昔のように若い人が目的が無くても街へ行こうとするような時代ではないかもしれないが、そうした中でも何かあった時にとりあえずはっちに行ってみようかなと思えるような存在であるべきだと思う。市民だけでなく市外の人でも何か困ったことがあったら、はっちに行ってみようというようなことが、はっちに一番求められる部分だと思うので、この3つの柱を上手くバランスを取つて成り立たせることが非常に大事だと思った。

【F 委員】

- ・貸館事業についてだが、受入について断る基準のようなものはあるか。貸館を断る場合や、これはそぐわないで貸さないということはあるのか？

【事務局】

- ・利用者登録をして部屋が空いていれば、公序良俗に反することがない限り、基本的には断ることはない。

【F 委員】

- ・都市部では、外国人ヘイトやネット右翼（ネット右翼）などが、市の施設で展示会を行うケースが増えている。公的な施設なので市民の利用を断らないスタンス多いので、なかなか断れない、展示を止められないというのが問題になっている。例えば前もって、公序良俗や多文化共生を活動の目的・ビジョンとしているので、差別には付議しないような内容を宣言文として挙げることも可能なかなと思う。社会包摂、多文化共生社会の実現に向けた取組についても広すぎるので何をしていくのかと、一つずつ、小さいステップでも良いので挙げていくと、5年間で何を達成することをできるのか見えてくると思う。迷惑系 YouTuber が市議会議員に立候補することも、もしかしたらあるかもしれないと思った。

○今後のスケジュール等について

【ファシリテーター】

- ・他に意見がないようなので、次第3の今後のスケジュール等について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・今回の会議の後、素案を調整し、1月中旬にパブリックコメントを実施する。市のホームページにも掲載する。実施期間は30日間の予定。その後パブリックコメントの内容を反映させ、3月中旬に実施予定の第3回アドバイザリー会議において、最終案についての意見聴取を行い、3月末に完成予定。4月以降、八戸市定例協議会で完成した第4期中期運営方針について報告するスケジュールとなっている。

【ファシリテーター】

- ・ただいまの説明で意見や質問が無ければ事務局に進行をお返しする。

【事務局】

- ・長時間にわたりご意見をいただき感謝申し上げます。
- ・それでは、以上をもって第2回八戸ポータルミュージアム中期運営方針アドバイザリー会議を終了します。お疲れ様でした。